

第10回厚生科学審議会感染症部会 薬剤耐性（AMR）小委員会

薬剤耐性（AMR）対策 アクションプランの進捗について （感染症対策部）

薬剤耐性（AMR）対策アクションプランの実施概要：厚生労働省

薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン（2023-2027）

成果指標

- ・ ヒトについて、薬剤耐性菌の耐性率・抗微生物薬の使用量

目標

目標1 普及啓発

- 記者勉強会
- SNS情報発信

目標2 動向調査・監視

- 薬剤耐性菌感染症（5類）の届出基準改訂、MDRP感染症の全数化検討
- ワンヘルス動向調査報告書

目標3 感染予防・管理

- 医療療養病床・高齢者施設における感染管理の把握

目標4 抗微生物剤の適正使用

- 抗微生物薬適正使用の手引き改定

- 抗微生物薬適正使用の手引きセミナー

目標5 研究開発・創薬

- 厚労科研10課題（AMR関連）
- 抗菌薬確保支援事業

- 抗菌薬確保支援事業

- 集団発生対応関係者向け研修会の実施
- ARIの疾病負荷及び経済負荷に関する研究の推進
- JARBBの菌株保存の推進

目標6 国際協力

- AMRワンヘルス東京会議
- 日サビジョン2030

- AMRワンヘルス東京会議
- 日サビジョン2030

- AMRワンヘルス東京会議
- 日サビジョン2030
- 西太平洋地域の国際協力の強化

厚生労働省

R6実施内容

AMR CRC

AMR 研究センター

- ※1
- 一般国民向け教育啓発活動
 - 医療従事者向け教育啓発活動

- J-SIPHE・診療所版J-SIPHEの参加医療機関の強化
- 抗菌薬の販売量調査
- JSAC、NDB等の情報の活用推進

- ※2
- JANIS・JARBS等の拡大強化
 - 院内微生物検査室の有無における薬剤耐性動向調査
 - 検査手法の統一化・精度管理の充実

- 集団発生対応関係者向け研修会の実施

※1 NCGMのAMR対策アクションプランに基づく取り組みを行う組織

※2 国立感染症研究所の薬剤耐性に関する包括的なシンクタンク機能を担う組織

薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン（2023-2027）の成果指標の現状

□ 微生物の薬剤耐性率（％）：ヒトに関して

評価項目	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2027年 (目標値)
バンコマイシン耐性腸球菌感染症の罹患数（人）	80	136	124	133	-※	80人以下 (2019年時点に維持)
黄色ブドウ球菌のメチシリン耐性率（血液）（％）	36.4	35.9	35.1	33.9	32.5	20%以下
大腸菌のフルオロキノロン耐性率（尿）（％）	35.1	35.4	34.6	34.0	32.8	30%以下
緑膿菌のカルバペネム耐性率（血液）（％）	7.2	7.1	7.0	6.3	5.0	3%以下
大腸菌のカルバペネム耐性率（％）	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2%以下
肺炎桿菌のカルバペネム耐性率（％）	0.4	0.4	0.4	0.4	0.3	

※ 未公表のため、2023年のバンコマイシン耐性腸球菌感染症の罹患数は未記載。

□ 抗微生物剤の使用量（％）：ヒトに関して

評価項目	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2027年 (対2020年比)
一日抗菌薬使用量（/千人）	12.75	10.18	9.77	9.78	11.96	15%減
経口第3世代セファロスポリン系薬	2.63	1.85	1.70	1.63	1.94	40%減
経口フルオロキノロン系薬	2.32	1.66	1.48	1.52	2.07	30%減
経口マクロライド系薬	3.84	2.93	2.72	2.66	3.45	25%減
カルバペネム系静注抗菌薬	0.08	0.07	0.07	0.07	0.06	20%減

数値：DID（DDD/1000 inhabitants/day）

データ元：薬剤耐性ワンヘルス動向調査年次報告書2024（案）、院内感染対策サーベイランス事業（JANIS）データ
アクションプラン（2023～2027）に則り、2020年を基準としたが、コロナ禍の影響も加味して、参考までに2019年の値も掲載。

目標 1 : 国民の薬剤耐性に関する知識や理解を深め、専門職等への教育・研修を推進する

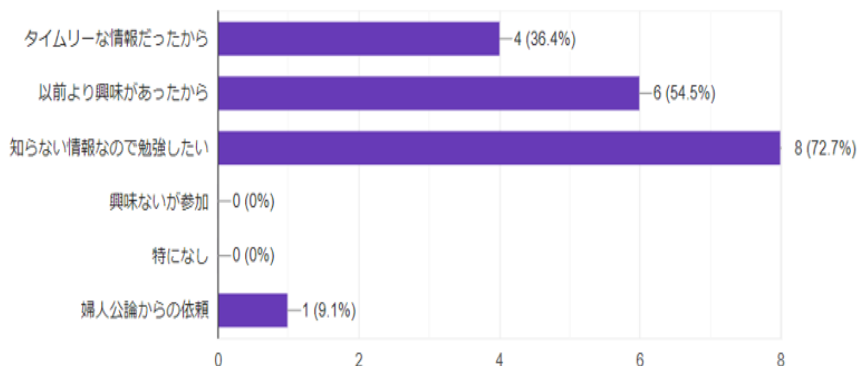
<令和 6 年度に実施した主な事項>

戦略1.1 国民に対する薬剤耐性の知識、理解に関する普及啓発・教育活動の推進

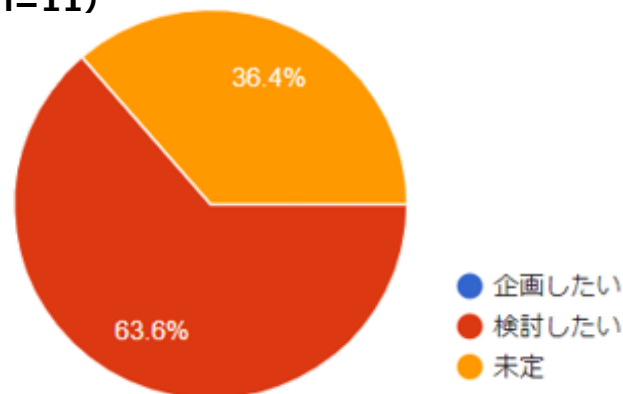
- SNS を活用した広報等により、普及啓発活動の更なる推進を図る（9月、UNGA-HLM on AMR）。
- **AMR に関する記者勉強会**を実施し、メディアによる報道の機会の増加を目指す（第1回、2024年6月：16社 17名、第2回、2024年8月：23社 32名）。

【AMR に関する記者勉強会に関する事後アンケート調査結果（一部抜粋）】

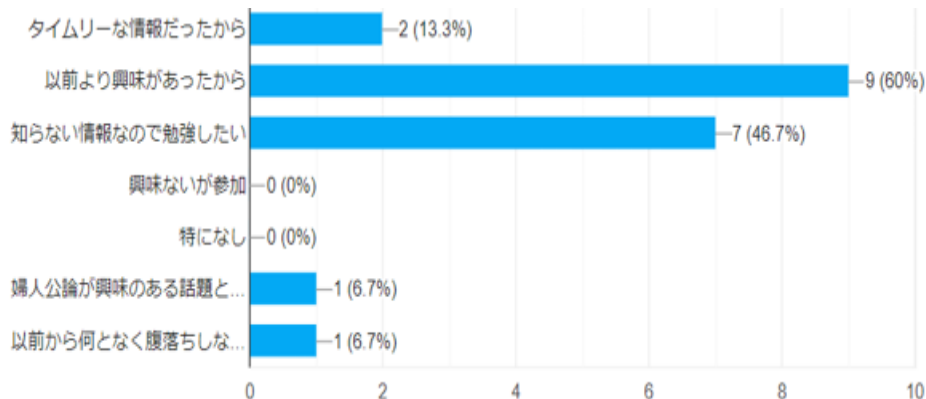
● 参加のきっかけ（n=11）（第1回、2024年6月）



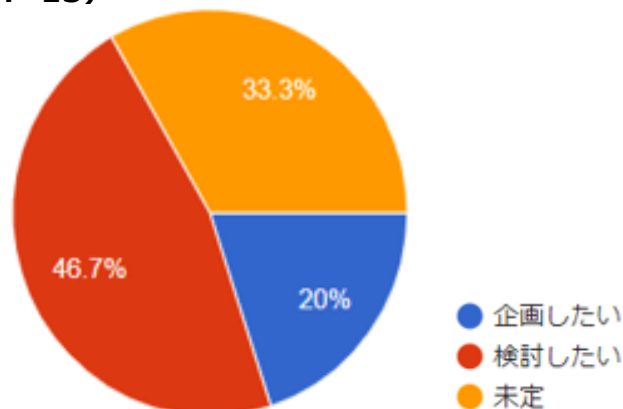
● 掲載予定（n=11）



● 参加のきっかけ（n=15）（第2回、2024年8月）



● 掲載予定（n=15）



薬剤耐性（AMR）対策推進月間（11月）

- 世界保健機関（WHO）では毎年11月18日から24日を世界薬剤耐性啓発週間（World AMR Awareness Week）として定めており、日本においても平成28年度から**毎年11月を「薬剤耐性（AMR）対策推進月間」として定め、薬剤耐性に関する全国的な普及啓発活動を推進。**
- 厚生労働省においても、薬剤耐性（AMR）について関心をもってもらえるよう、映画『はたらく細胞』とのコラボレーションによるポスターの作成や、広報誌『厚生労働』2024年11月号で薬剤耐性の特集し、菌とウイルスの違いや手洗いの重要性、AMR対策の土台となる臨床現場での薬剤耐性菌の検査方法、AMR臨床リファレンスセンターにて実施しているAMR対策に必要な情報の収集・還元など具体的な活動に加え、AMR対策の積極的な取り組みのグッドプラクティスとして地域の薬局薬剤師が実践したAMR対策活動や、国のAMR対策について高校生が関係機関に直接取材して作成した新聞などを紹介。



映画『はたらく細胞』とのコラボレーションによるポスターの作成



広報誌『厚生労働』2024年11月号 掲載記事一例



松山高校新聞（特別号）（埼玉県）

目標 2 : 薬剤耐性及び抗微生物剤の使用量を継続的に監視し、薬剤耐性の変化や拡大の予兆を適確に把握する

<令和 6 年度に実施した主な事項>

戦略2.1 医療・介護分野における薬剤耐性に関する動向調査の強化

○ CRE 等の AMR 感染症の届出基準や薬剤耐性緑膿菌（MDRP）感染症の全数化の検討など

【AMR 感染症の届出基準や MDRP 感染症の全数化の検討：現在までの流れ】

- 令和 6 年10月16日：第 9 回薬剤耐性（AMR）小委員会
⇒ 5 類感染症に分類されている薬剤耐性菌感染症について
- 令和 6 年12月13日：厚生科学審議会感染症部会において議論

【変更点】

感染症	変更点	変更後の影響	
		届出の負担 (推計値)	改訂予定 時期
MRSA	MPIPC のディスク拡散法の基準は削除し、基準を以下の通りとする。 MPIPC の MIC が 4 μ g/mL以上、又は CFX の MIC が 8 μ g/mL以上または感受性ディスク（KB）の阻止円直径が21 mm以下	1~2% 増 (14,000例程度)	令和 7 年 4 月
PRSP	無菌検体以外（喀痰等）から検出された場合、PCG の MIC が 4 μ g/mL以上、かつ分離菌が感染症の起因菌と判定された場合。	40~50% 減 (500例程度)	
CRE	IPM と CMZ 基準を削除し、基準を以下の通りとする。 ・MEPM の MIC が 2 μ g/mL 以上であること、又はMEPM の感受性ディスク（KB）の阻止円直径が 22 mm 以下。 ・薬剤感受性試験の結果が上記、アを満たさない場合であっても、イムノクロマト法によるカルバペネマーゼ産生、又はカルバペネマーゼ遺伝子の確認。	60~70% 減 (600例程度)	
MDRP	基幹定点把握から全数把握対象疾患とする。	増 (最大700例程度)	令和 8 年 4 月

目標2：薬剤耐性及び抗微生物剤の使用量を継続的に監視し、薬剤耐性の変化や拡大の予兆を適確に把握する

<令和6年度に実施した主な事項>

戦略2.5 ヒト、動物、食品、環境等に関する統合的なワンヘルス動向調査の実施

○ ヒト、動物、食品、環境分野の専門家から構成される「薬剤耐性ワンヘルス動向調査検討会」を1回開催（2025年1月8日）し、「薬剤耐性ワンヘルス動向調査年次報告書2024」「サマリ版」をとりまとめ、発出予定（2025年3月位）。

【薬剤耐性ワンヘルス動向調査年次報告書2024：現在までの流れ】

- 令和7年1月8日：第12回薬剤耐性ワンヘルス動向調査検討会
⇒ 【報告書2024本体】及び【サマリ版】の検討
- 令和7年3月位：発出予定

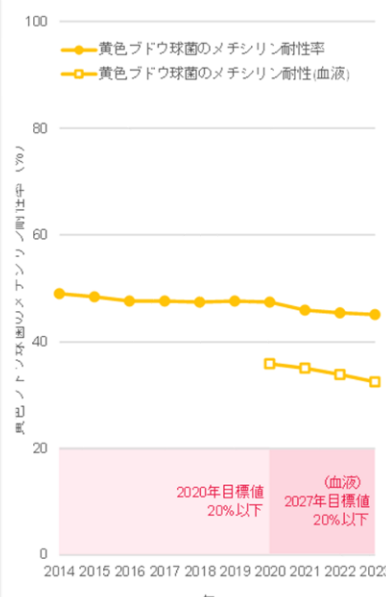
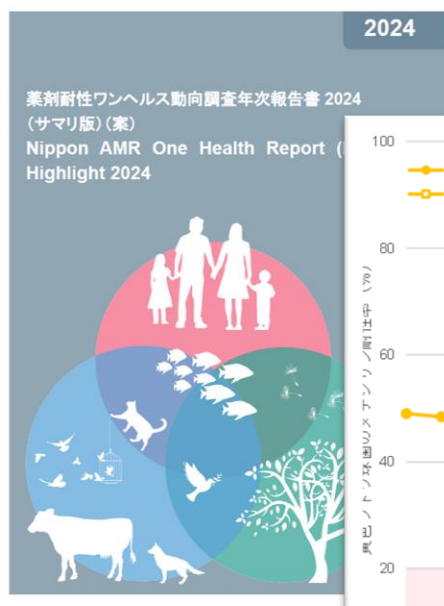
薬剤耐性ワンヘルス動向調査年次報告書

2024（案）

Nippon AMR One Health Report (NAOR)
2024

令和7年〇月〇日

薬剤耐性ワンヘルス動向調査検討会



アクションプランの成果指標

① ヒトにおける全抗菌薬使用量の推移

日本におけるヒト用抗菌薬の販売量に基づいた抗菌薬使用量(DID¹)は、2023年は全体で11.96 DIDであり、2020年と比較し17.4%増加しました。



目標 4：医療、畜水産等の分野における抗微生物剤の適正な使用を推進する

＜令和 6 年度に実施した主な事項＞

戦略 4.1 医療機関における抗微生物薬の適正使用の推進

- 「抗微生物薬適正使用の手引き」の第四版発出に向け、現在、改訂作業中。**2025年10月を目処に発出予定。**

【抗微生物薬適正使用の手引き改定スケジュール：現在までの流れ】

- 令和 6 年10月16日：第 9 回薬剤耐性（AMR）小委員会
⇒ 手引き改訂の必要性についての検討
- 令和 6 年11月19日：第 9 回抗微生物薬適正使用（AMS）に関する作業部会
⇒ 具体的な改定内容および執筆担当者についての検討
- 令和 6 年11月28日～12月21日：第 1 回執筆担当者ミーティング
- 令和 6 年12月13日：厚生科学審議会感染症部会にて、ご報告
- 令和 7 年 1 月30日～ 2 月 6 日：第 2 回執筆担当者ミーティング（各領域リーダーのみ）

【今後のスケジュール（案）】

	R6年度	R 7 年度					
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
厚生労働省	作業部会 持ち回り 審議 確認 作業		作業部会 持ち回り 審議 確認 作業		(予定) 抗微生物 薬 適正使用 (AMS) に関する 作業部会	(予定) 薬剤耐性 (AMR) 小委員会	(予定) 感染症 部会 ↓ 日本語版 発出
作業班	原稿 一次 締切	修正 作業	原稿 二次 締切	修正 作業	原稿 Fix		

【改訂ポイント】

● 歯科編の追加

全国抗菌薬使用量調査によると、歯科領域では内服抗菌薬が 99% であり、ペニシリン以外の β-ラクタム系抗菌薬が半数を占め、その中でも第3世代セファロスポリンが大部分である。

⇒ JAID/JSC 感染症治療ガイドや歯周病患者における抗菌薬適正使用のガイドラインに抗菌薬の使用方法が記載されているものの、必ずしもガイドラインに準じた処方になっていない状況があると推測。

方針（案）

抗微生物薬適正使用に向けて、歯科領域において遵守すべき事項をまとめる。具体的には、

- ・ 術後の予防投与および歯性感染症の治療に関する歯科領域感染症の範囲を明確する、等

● 医科編の時点更新

最新の知見に基づき、時点更新・内容の整理、等

目標5：薬剤耐性の研究や、薬剤耐性微生物に対する予防・診断・治療手段を確保するための研究開発等を推進する

<令和6年度に実施した主な事項>

- 戦略5.1 薬剤耐性の発生・伝播機序及び社会経済に与える影響を明らかにするための研究の推進
- 戦略5.2 薬剤耐性に関する普及啓発・教育、感染予防・管理、抗微生物剤の適正使用に関する研究の推進
- 戦略5.3 感染症に対する既存の予防・診断・治療法の最適化に資する臨床研究の推進
- 戦略5.4 新たな予防・診断・治療法等の開発に資する研究及び産学官連携の推進
- 戦略5.5 薬剤耐性の研究及び薬剤耐性感染症に対する新たな予防・診断・治療法等の研究開発に関する国際共同研究の推進
- 引き続き、調査研究を継続する予定。3か年厚労科研にて「高齢者施設・診療所」「抗菌薬の適用更新の検討」をテーマに公募した。
- 戦略5.6 抗微生物薬の持続的な開発、安定供給の強化
- 引き続き、抗菌薬確保支援事業を継続する。

【薬剤耐性（AMR）対策に関する厚生労働科学研究（次ページに続く）】

研究	研究 代表者	研究課題名／概要	薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン（2023-2027）との関連					
			目標1 普及啓発	目標2 動向調査	目標3 感染予防	目標4 適正使用	目標5 研究開発	目標6 国際協力
指定 R5-7	大曲 貴夫	薬剤耐性（AMR）アクションプラン 2023-2027 年の実行における課題解決のための研究 「薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン」の実行に必要な科学的知見を得ることを目的とし、 主要感染症（肺炎、UTI、SSI、菌血症、髄膜炎）の疾病負荷の算出 や医療分野における 抗菌薬使用販売量の変化とその要因分析 に関する研究を実施しており、抗菌薬使用（AMU）サーベイランスに関する研究では 医療機関の抗微生物薬適正使用の質の評価方法および医療機関の特性を考慮した抗菌薬の標準的使用量の推定方法の確立 に取り組む。	○	○		○	○	
指定 R5-7	菅井 基行	AMRに関するアジア太平洋ワンヘルス・イニシアチブ（ASPIRE）実行のための体制整備に資する研究 各国のサーベイランスデータから WHO 提出用ナショナルデータを作成可能な ASIARS-Net システムの機能追加及び改良 。また、 アジア各国において三輪車プロジェクトのプロトコルを使用した ESBL 保有大腸菌サーベイランス を進めている（マレーシアとインドネシアではすでに菌株収集が開始され、定期的な報告が届くと共に日本に菌株輸送予定）。		○ <i>C. auris</i>			○ 三輪車	○ ASIARS- Net
公募 R4-6	松永 展明	薬剤耐性（AMR）対策に有用な既存の抗微生物薬を温存するための添付文書見直しと新規開発薬などの導入体制の整備及び行動変容に効果的な普及啓発・教育活動確立のための研究 抗菌薬の添付文書について、海外のガイドラインとの乖離を調査し、 ドラックラグの解消および用法用量の適正化に向けて基礎的な資料を作成 するとともに、 効果的なAMR対策のための行動変容に結びつく教育啓発方法の検討 を行っている。	○			○		

目標5：薬剤耐性の研究や、薬剤耐性微生物に対する予防・診断・治療手段を確保するための研究開発等を推進する

研究	研究代表者	研究課題名／概要	薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン（2023-2027）との関連					
			目標1 普及啓発	目標2 動向調査	目標3 感染予防	目標4 適正使用	目標5 研究開発	目標6 国際協力
公募 R6-8	金森 肇	環境中における薬剤耐性菌及び抗微生物剤の調査法の確立のための研究 環境中の薬剤耐性の調査方法とヒト感染症・家畜感染症へのリスク評価のため、 下水処理場放流水の全国サーベイランス、メタゲノム解析および培養法を用いた環境水中の薬剤耐性因子のモニタリング、環境中の抗菌薬濃度の推計法に関する研究 を実施している。		○ 環境AMR			○	
公募 R6-8	林原 絵美子	ヘリコバクター属菌の薬剤耐性の対策に資する研究 ピロリ菌の薬剤耐性サーベイランス およびピロリ菌の薬剤感受性試験の精度管理法の確立、標準株パネルの作成、また、 <i>H. suis</i> の薬剤耐性に関する研究を実施している。		○ ピロリ菌				
公募 R4-6	大毛 宏喜	診療所及び高齢者施設を対象とする効率的・効果的な薬剤耐性菌制御手法の確立のための研究 高齢者施設における薬剤耐性菌対策ガイドの作成、診療所の抗菌薬実態の解析、診療所および高齢者施設における微生物検査（外部委託）の適正化が抗菌薬適正使用に貢献しているか の検討している。			○ 高齢者施設	○		
指定 R4-6	宮崎 義継	わが国の病原体検査の標準化と基盤強化、ならびに、公衆衛生上重要な感染症の国内検査体制維持強化に資する研究 感染研と地衛研・保健所と連携を強化や病原体検出マニュアルの更新を行うとともに、不明病原体検査マニュアルとして網羅的NGS検査法の作業手順書を作成した。また、分担研究者の松井らは、 薬剤耐性菌検査技術研修を開催 した。		○				
公募 R4-6	都築 慎也	国内外における AMR 対策の向上に資する研究 静注抗菌薬の適正使用、手指衛生に関する指標の検討 、AMU 減少に対する安全性の検討を実施している。また、分担研究者の山岸らは、 MDRP の届出体制の評価 、AMR事例のリスク評価と対応策の検討、マレーシア 国内医療従事者と公衆衛生担当者向けの AMR アウトブレイク対応指導者研修で技術支援 を行った。		○ 緑膿菌	○ 手指衛生	○		○
公募 R5-7	宮入 烈	小児領域を含む薬剤耐性感染症対策に係る地域間連携の標準モデルの策定・推進に資する研究 AMR 対策の既存の組織体制や介入方法の検討し、OASCIS を活用した急患センターや一次診療を中心としたモデルの構築 等、 地域におけるAMR 対策を推進させるための標準化モデルの作成に関する研究 を実施している。また、 小児領域 における抗微生物薬使用状況の調査や 耳鼻科領域 におけるAMR 対策活動を始動した。			○		○	
指定 R5	加藤 誠也	結核低蔓延状況での結核対策推進のための研究 分担研究として、 結核の薬剤感受性に関するゲノム診断精度の向上に関する研究 を実施している。		○ 結核				

目標5：薬剤耐性の研究や、薬剤耐性微生物に対する予防・診断・治療手段を確保するための研究開発等を推進する

<令和6年度に実施した主な事項>

戦略5.6 抗微生物薬の持続的な開発、安定供給の強化

- 引き続き、抗菌薬確保支援事業を継続する。

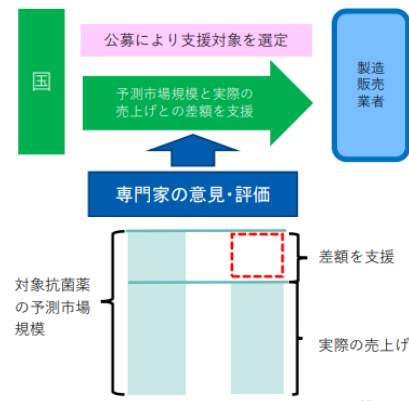
【タイムライン】

- 令和5年3月13日 第4回抗微生物薬の市場インセンティブに関する検討会
⇒令和6年度公募の審査を実施して塩野義製薬株式会社を採択。
- 令和6年10月23日 抗微生物薬の市場インセンティブに関する検討会（令和6年度第1回）
⇒令和6年度二次公募の審査を実施してファイザー株式会社を採択。
- 令和7年3月 抗微生物薬の市場インセンティブに関する検討会（令和6年度第2回）開催予定
⇒令和6年度の事業報告を受けて事業評価を実施予定。
令和7年度公募の審査を実施予定。

	R 5 年度	R 6 年度												R 7 年度
	Q 4	Q 1			Q 2			Q 3			Q 4			Q 1
	2, 3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月
事業者	事業開始 ▼ 採択 ▼										採択 事業開始 ▼		採択 ▼ 事業開始 ▼	
厚生労働省	R 6 年度公募 ↑ 第 4 回検討会 R 5 年度事業評価 R 6 年度公募選定							R 6 年度二次公募 ↑ 第 1 回検討会 公募選定					R 7 年度公募 ↑ 第 2 回検討会 R 6 年度事業評価 R 7 年度公募選定	R 6 年度事業の支払

抗菌薬確保支援事業

○我が国においても、抗菌薬による治療環境を維持しつつ、国際保健に関する国際的な議論で主導的な役割を果たすため、市場インセンティブの事業（企業が国の薬剤耐性対策（販売量の適正水準維持）に協力することで生じる減収に対して、一定額の収入を国が支援すると同時に、抗菌薬の開発を促す仕組み）を実施する。



※予測市場規模は、専門家の意見・評価を踏まえて設定する。

目標6：国際的視野で多分野と協働し、薬剤耐性対策を推進する

<令和6年度に実施した主な事項>

戦略6.1 薬剤耐性に関する国際的な政策に係る日本の主導力の発揮

戦略6.2 薬剤耐性に関するグローバル・アクション・プラン達成のための国際協力の展開

第4回AMR（薬剤耐性）閣僚級会合*1

ワンヘルスの枠組みで AMR 対策を地球規模で推進するため、国連ハイレベル会合政治宣言（2024年9月）を実行に移すべく（“From Declaration to Implementation”）、法的拘束力を持たない Jeddah Commitment が批准された。

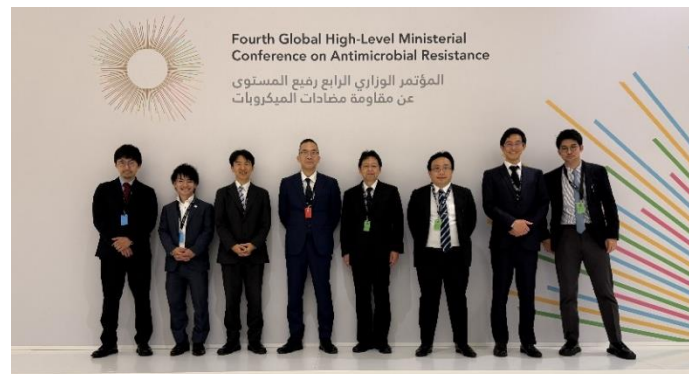
会合概要

- ・場所：サウジアラビア王国・ジェッダ
- ・主催：サウジアラビア王国（開催宣言はサウジ保健大臣）
- ・主な日本側参加者：井上肇 大臣官房 国際保健福祉交渉官、大曲貴夫国立国際医療研究センター国際医療研究センター長*2
- ・テーマ：“Stewardship and Surveillance”、“Capacity Development”、“Access and Affordability”、等



The Jeddah Commitmentの概要

- ・Quadripartite*3の元、「AMRに対する行動のための独立エビデンスパネル*4」の2025年の設立に向けて引き続き努力する
- ・サウジアラビア国外に Regional Antimicrobial and Logistics Hub の設立を歓迎
- ・サウジアラビア国内に EMRO 地域向けの AMR One Health Learning Hub を設立することを歓迎
- ・次回（2026年）はナイジェリアを開催国（※日本側は感染症対策課がサウジアラビア側と3回ほどWeb会議を行うことで、zero draft の作成に貢献した）



日本代表団の集合写真



パネルディスカッションで井上国際保健福祉交渉官がご発言

- *1 第1回（2014年オランダ王国、厚生労働審議官（がん対策、国際保健担当）出席）、第2回（2019年オランダ王国、鈴木医務技監）、第3回（2022年オマーン国、福島医務技監）に次ぐ4回目の開催。
- *2 他感染症対策課から室長級以下2人、医政局総務課から室長級以下3人、NCGM臨床疫学リファレンスセンターから1人が出席。サブ・ロジ共に感染症対策課が担当。
- *3 世界保健機関WHO、国際獣疫事務局WOAH、国連環境計画UNEP、国連食糧農業機関FAOの4機関。
- *4 全ての国連加盟国が加入し政治的に独立したエビデンスを発信することで政策立案を支援するパネル。意思決定プロセスにおいては、気候変動に関する政府間パネル(IPCC)を参考にし、Quadripartiteの関与は最小限とし、各国代表の総意として科学的エビデンスに基づいた推奨が行われる予定。

目標6：国際的視野で多分野と協働し、薬剤耐性対策を推進する

<令和6年度に実施した主な事項>

戦略6.1 薬剤耐性に関する国際的な政策に係る日本の主導力の発揮

○引き続き、AMR ワンヘルス東京会議において、「AMRに関するアジア太平洋ワンヘルス・イニシアチブ（ASPIRE）」の進捗を確認するとともに、これらの取組を通じ、各国のAMR対策の支援・推進を行う。今年度のAMR ワンヘルス東京会議は、5年ぶりの現地開催で、令和7年2月18日～19日に開催した。

【開催概要】 Tokyo AMR One Health Conference 2025

日時：令和7年2月18日（火）9:00～令和7年2月19日（水）16:30、場所：TKP新橋カンファレンスセンター

参加国：29か国/35か国⇒ 約 170名（現地参加：120名、オンライン参加：50名）

	Chair / Organization
1 Surveillance system and laboratory network	Japan, Prof. Motoyuki SUGAI, National Institute of Infectious Diseases
2 Health-care management	Japan, Dr. Takuya YAMAGISHI, National Institute of Infectious Diseases
3 Antimicrobial access and regulation	WPRO, Dr. Takeshi NISHIJIMA Japan, Dr. Norio OHMAGARI, National Center for Global Health and Medicine
4 Research and development	Thailand, Prof. Prasit PALITTAPONGARNPIM, Mahidol University Singapore, Prof. Li Yang HSU, National University of Singapore

【コンセプト】

In the series of international events and initiatives, including WHA77, the WPRO Joint Position Paper, the UNGA High-Level Meeting on AMR, and the 4th Ministerial Conference on AMR, there is an increasing demand to accelerate countermeasures and achieve tangible results. This includes securing and implementing the budget for National Action Plans (NAPs), establishing numerical targets for the WHO Access Group ratio and GLASS-AMR pathogen testing capacity, and supporting policy implementation through the Independent Evidence Panel (IPEA). Building on these developments, we will share and discuss more concrete measures.

薬剤耐性（AMR）対策アクションプランの成果指標を達成するための施策の検討

・薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン（2023-2027）に関して、各目標・戦略に基づいて取り組んでいるが、今後、目標達成のために特に強化する取組として、以下の課題を重点的に検討してはどうか。

R7年度の検討課題（案）	NAP との関連	関係団体等
AMRに関する教育・普及啓発の促進に向けた取組 - 国民の認知度向上に関する社会行動学の研究（行動変容に関する研究）、無関心層へのアプローチに関する研究 - AMR対策推進月間の活動内容の検討 - 記者勉強会の内容の検討	（戦略1.1） 国民に対する薬剤耐性の知識、理解に関する普及啓発・教育活動の推進 （戦略5.2） 薬剤耐性に関する普及啓発・教育、感染予防・管理、抗微生物剤の適正使用に関する研究の推進	AMRCRC 厚労科研 研究班
JANIS など各種サーベイランスの質の向上に向けた取組 適切な精度管理体制の構築	（戦略2.4） 医療機関 等における薬剤耐性に対する検査手法の標準化と検査機能の強化	検査関連団体・学会 AMR-RC
MRSA 及び VRE 感染症の減少に向けた取組 - 要因分析 - 必要な取組に対するエビデンスの構築：手指衛生の強化など	（戦略 3.3） 薬剤耐性感染症の集団発生への対応能力の強化 （戦略 5.2） 薬剤耐性に関する普及啓発・教育、感染予防・管理、抗微生物剤の適正使用に関する研究の推進	医療・介護職
抗微生物薬適正使用を推進に向けた取組 医師会や歯科医師会、学会等に参加していない診療所や医療機関への手引きの普及と啓発	（戦略 1.2） 関連分野の専門職等に対する薬剤耐性に関する教育、研修の推進 （戦略 4.1） 医療機関における抗微生物薬の適正使用の推進	AMRCRC 関連学会 医療機関
抗微生物薬の持続的な開発に繋がる体制の整備 抗菌薬確保支援事業の評価法の検討及び評価	（戦略5.6） 抗微生物薬の持続的な開発、安定供給の強化	AMRCRC AMR-RC
成果指標達成に向けたエビデンスの創出（施策へ反映） - AMR感染症の疾病負荷、医療経済効果 - ASPIRE（WG1～4）の推進	（目標 5） 薬剤耐性の研究や、薬剤耐性微生物に対する予防・診断・治療手段を確保するための研究開発等を推進する	厚労科研 研究班

AMRアクションプランの実施概要

薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン（2023-2027）

成果指標

- ・ ヒトについて、薬剤耐性菌の耐性率・抗微生物薬の使用量

目標1 普及啓発

- 記者勉強会
- SNS情報発信

目標2 動向調査・監視

- 薬剤耐性菌感染症（5類）の届出基準改訂、MDRP感染症の全数化検討
- ワンヘルス動向調査報告書

目標3 感染予防・管理

目標4 抗微生物剤の適正使用

- 抗微生物薬適正使用の手引き改定中

目標5 研究開発・創薬

- 厚労科研10課題
- 抗菌薬確保支援事業

目標6 国際協力

- AMRワンヘルス東京会議
- 日サビジョン2030

目標3 感染予防・管理

目標4 抗微生物剤の適正使用

目標達成のために、より強化が必要

要対策強化

R7検討課題

- 国民の認知度向上に関する研究の実施
- AMR対策推進月間の活動
- 適切な精度管理体制の構築
- 手指衛生の強化等
- MRSA 及び VRE 感染症の集団発生の減少に向けた取組
- 手指衛生に関するエビデンス構築に関する研究
- 医師会や歯科医師会、関連学会未参加医療機関への手引きの普及と啓発
- 抗菌薬確保支援事業の評価法の検討及び評価
- ASPIREの推進

R7検討課題の中でも、重点的に実施